

令和元年度教育委員会表彰

四万十町教育委員会では1年間で教育・学術・文化・技芸・スポーツなどの振興発展に貢献し、その功績が他の模範として推奨できる学校等または団体をしくは個人を表彰します。

令和元年度は、団体8団体、個人23人が受賞しました。授賞式については残念でしたが新型コロナウイルス感染症拡大防止の為行われず、受賞者の方には表彰状と記念品の盾をお送りしました。

受賞者の皆さま、受賞おめでとうございます!!

※令和2年3月26日時点

団 体		個 人	
奨励賞	川口小学校	奨励賞	辻本未来斗（興津小）
功績賞	大正中学校ソフトボール部 窪川中学校男子ソフトボール部 窪川中学校女子ソフトボール部 オール四万十	功績賞	橋本翼（興津小） 窪田百華（川口小） 小嶋一平（興津小） 川上怜子（窪川小） 谷脇慈久（窪川小） 武田龍磨（窪川小） 岩本ななこ（興津小） 谷村汐音（興津小） 中嶋沙桜（興津小） 戸田あかり（土佐女子中） 濱町菜那（窪川中） 大杉妃乃（窪川中） 森田柊馬（大正中） 小椋千寿（高知工業高） 味元琉維（高知工業高） 片岡竜羽（明德義塾高） 宮本幸輝（明德義塾高）
功労賞	興津小学校 興津中学校 窪川小土曜日学校推進委員会	功労賞	久保田聖那（須崎総合高） 川上理恵 谷本好美 高垣恵一 田邊 富男

四万十ポークがドイツのコンテストで金賞!!

本町の東大奈路にあるデュロックファーム加工直売所のソーセージが、本場ドイツのコンテストで見事金賞を受賞しました。このコンテストは、120年以上の歴史を持ち、世界各国から約5,000品目が出展され、原材料の配合から香辛料や添加物の種類など、200近くの項目を審査し、すべての項目で減点なくクリアした商品が金賞となります。



町長に受賞の報告を行った加工直売所の川上工場長は、『世界的なコンテストでも認められた四万十ポークの美味しさを詰め込んだソーセージを皆さんに楽しんでいただけたら』と四万十ポークブランドを後押しする受賞を喜ばれていました。



四万十町商工会と災害等発生時における施設使用について協定を結びました

商工業者などの早期事業復旧および円滑な業務遂行を図ることを目的として、4月1日に四万十町商工会と協定書を締結しました。この協定は、大規模災害の発生により四万十町商工会事務所が使用できない状態となったときに、その代替施設として本庁東庁舎2階会議室を使用するものです。



季節の風景 5月

端午の節句



5月5日の「端午の節句」は、中国の烈士を弔った故事が起源とされ、男子の気概を養う日として平安朝以来、宮廷で行われてきました。

昔は、五月の端の午の日に行われたので端午と言われるようになりました。後に「五」と「午」が同音であることから、五月の五日の日が厄祓いの日として定着するようになったそうです。

また、この時期に咲く菖蒲には邪気を払う霊力があると信じられていたので「菖蒲の節句」とも言われます。男の子の家では、鯉のぼりを立てたり、初節句には武者人形や兜を贈る習慣になっています。そして、お風呂には菖蒲を入れたりもします。このような習慣が広まったのは江戸時代からで、五節句のひとつとして武家社会に広まりました。

最近では、田舎以外ではあまり見かけなくなった鯉のぼりですが、日本の風物詩には欠かせないもののひとつかもしれません。

笈も太刀も五月に飾れ紙幟 松尾芭蕉

今月の

自分で生産した食材でレストランをやりたい!



十和地区担当の地域おこし協力隊として、昨年5月に着任された中川さん。ご出身は、なんと、四万十町から1500km以上離れた岩手県久慈市。みなさん、インターネットで「四万十町から岩手県久慈市までの距離」で検索してみてください。青森県はすぐそこというところで



▲昭和にある農業支援組織でお手伝い!

の限界!それまでは全く畑違いの仕事に転職することにも。もともと食えることが大好きだった中川さんが就いた仕事はレストランの厨房。フレンチやイタリアンのお料理を提供するレストランのシェフになったのです。そこで中川さんはメキメキ腕を上げ、とうとう料理長を務めるまでになりました。メニューの立案から、スタッフのシフト作り、さらには経営の一端を担うまでになり、まさに「パンク寸前の毎日」が続いたといいます。「このままだったら、好きだった調理を嫌いになつてしまう」と悩み抜いた結果「嫌いになる前にやめよう」と決断。シェフになつてから10年の歳月が流れていました。

レストランをとりあえずやめた「中川さんでしたが」与えられた食材で調理するだけではなくて、食材から作ってみたい」と

いう思いは溢れていました。そんな時に、縁あって東京・銀座の高知県アンテナショップに足を運んだところ、これまた縁が繋がりました。四万十町の職員と話すことができたそうです。そこからトントン拍子に話が進み、当地域おこし協力隊として、十和地区の農業振興の任につくことになりました。

いずれは、自分で生産した食材でレストランをやりたいという夢がある中川さん。でもその前に、ちゃんと作物を育てられるようにならないと...有機野菜でいきたいですね!



なかがわ ゆうや
中川 祐也さん
(十川)